

偶
地
記

特別

~13

3633

12



個地記
理地記



門 13
號 3633
卷 12

昭和二十六年六月八日
宮川曼次氏寄贈

えとあひはあひ空を見つて小田系おだやれ
 ーうきーうきーうきもうき堂どうのまく
 夫それハう外郎が是これハせい高樓こうーうハ
 祢ねノいろあけ路ろのいろあけ淫いん色しきーうーう茶ちや色いろ
 表紙ひやうしや口拍子くちびし時乃とき調子てうしを
 ーうーうーう娼婦おしやう地理ちり記きと

見すみ終しゆのしゆ

高たか樓ろう麻阿まあ記き



三
 三

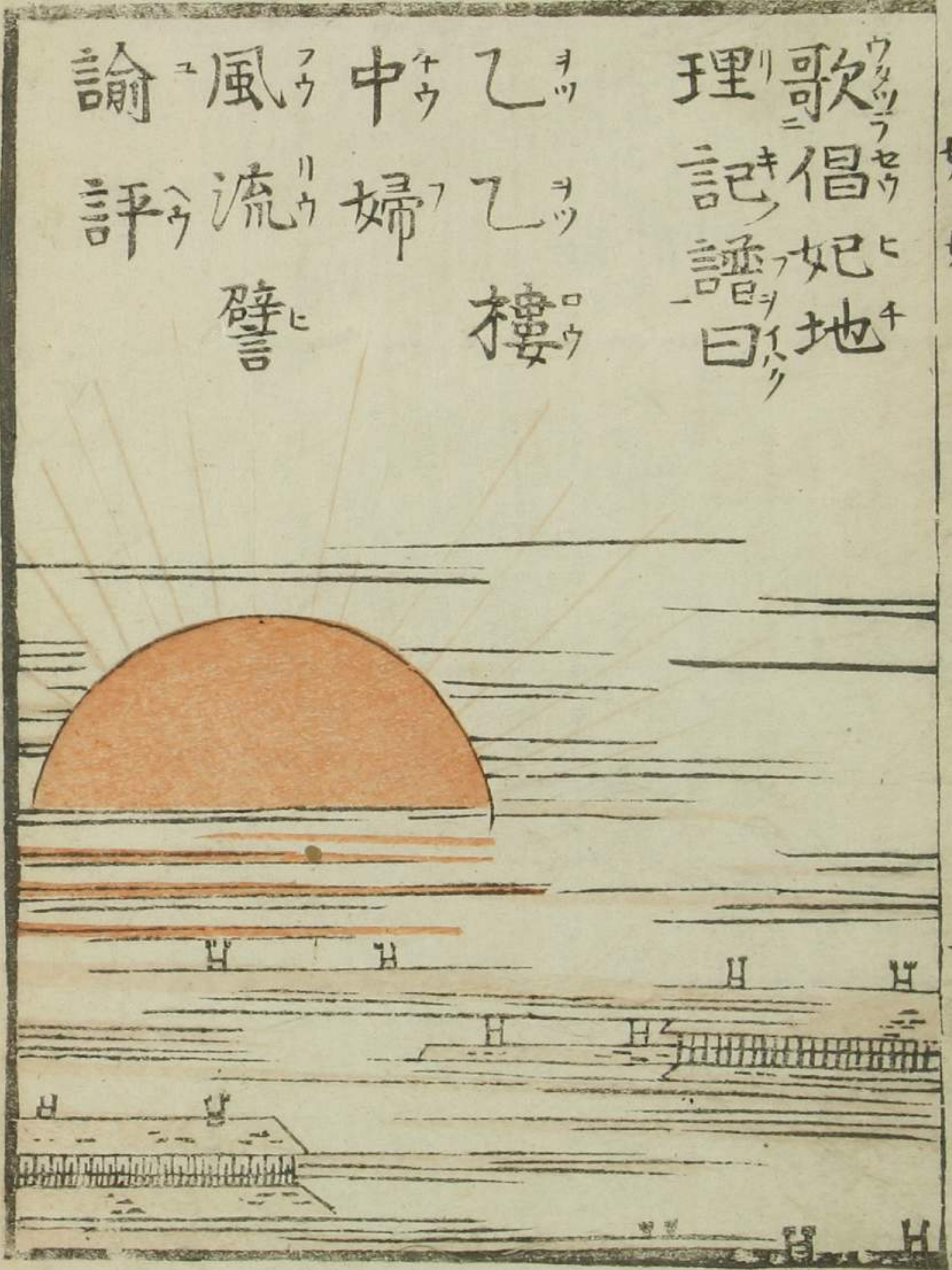
如
如
歌^{ウタ}倡^{カウ}妃^ヒ地^チ
理^リ記^キ譜^フ曰^{イハク}

乙^ヲ乙^ヲ樓^{ロウ}

中^{チウ}婦^フ

風^{フウ}流^{リウ}譬^ヒ

論^{ロン}評^{ヘウ}



扶桑東武の北ハコの山々ヤマとて乃
 小河の極北國の原始ハツシを尋るる日本
 國常トシ立タ尊ノミより天神七代地神五代と
 續ツき其天神七代目の具那とを伊弉
 諾カキるとり伊弉諾とを伊弉册カミとりた
 りる也其比を未ととりし物もをる也

唱
也

四

そととらり、家もあしん、る天の志を
のく、園くをりつめひ鼻柱ハナしらとたまをくら
たごらんとおつけひーとら二柱の御神
とはやとうやけ時三ツめとん、あきて天座
さもかい時代あまを夫婦の御神ハ土べ
た小ぢくくとと痛て付たうしりめと余
温海西ゆつて古月をみそて終ぐーと臣下
いよめやける、いよ時志のぢらとらあまの

監筋しんせうく、け時鬱にんくちやう銘めいく、ふきを師匠しせう様く
まて、あまのまくだらとやうきやらの志免
かくまんとやうつあまを初めたりして日本
うはまづの用山陰陽いんやうの秘玉ひたまとハたうま
めひけま、まな天あまのは橋はしと弁後王、あま
の逆津さかたにとまらうとぬま、まよあ、あまを
めつ、いせま、にまぐらうひーに、河、系乃
あ、のう、と腕てまの下とまぐらうめあ、時、菅人系

四二

五

甚えらこそをゆぐりてちけりまろひつあひ
しゆくやこ評のきこまらのごとあり股かの
分くくうかるあつて下の高となるを教
これを南あ勝せ部ぶ州しゅう豊あ葦あ原げん大たい日本に国こくと
号ごうは又おのころ將しやうといふも彼かいのこの等
あらばを存ぞんこれを六ろく十じゅう六じゅう六じゅうといふもわらくもち
一いっふの内うちめて又殿てんといふ物といけられ
しまつとこれは皆みななるを一いっのちのりに

後ごふを以もつ又胡こ莽まう謀ぼう胡こ莽まう丹たんといふ婦夫ふう乃
少せう神しんかりまふんけんハ後子しを考ふが後ご
神しん七しち代だい目めの少神しん也なり。是い神しん代だいのとなる
からむあつてワらくせふは神しん大だいのあらりり
まよにてまままのあらり。有けれぬ氣もあらず
あらひおれもあらりあらりのを撫なでんんと思おもふ。
天あまのほ橋はしハ空の結約けつやくよりも眩けん暉けいをれを
今いまもいさんや乃の橋はしのとより。紋のうをあらすを

とうてきをさうとあさざうのあふかぬを
 の瀧たきころかてまうて積つみとあり瘡かさとあり。
 新あらたの弘ひろ文ぶん子こといふ人これとまうて
 まて下の里とあは則すなはち日本のおつうあせ
 して北きた仙せん婦ふ列れつ新あらた吉きち原げん大だい月げつ本ほん使し
 名なづけゆふそほふとあつみさうらふ
 の内うちあて郡こほりとまうてされち日本と
 遠ちかひて郡こほりは時ときく増けん城じやうあり。郡こほりの名も

時ときく時ときくゆふそほふとあ伊い井い諾だくの逆さか解げハ大だい和わ
 へ投な捨すてゆふそほらうの山やまと佐さ保ぼ山やまと云
 川かみとさ河か川がわといふ逆さか解げハえ来きた筆ふで乃なり
 あとと神かみ秘ひあてさうほこと云あつり世よハ
 今いま河か川がわをさうてまうて入い河か川がわして井いホ
 と云と云とホコレタ。あつりあつりお又
 彼かのるがどハよと系けいとさんや橋はしのまく投な捨すて
 今いま今いまのさんやの土つち堤づつこれとげ土つちのよの上うへと

及して海よりくるやこの及と云しを。
好世語てむるこの及と冠^{まがら}海よハ云々を。
けうるやこハ昔原の外に投^なりよゆ日本
の地と定らるるとけ方のるをこめれを月
本の内ありとて伊^い莽^{まう}議^ぎと胡^こ莽^{まう}議^ぎの争^{あや}ひ
ありしより今の世ともしやらやとら^らん^んん^ん
とふやとくやさんどもけ^{えん}論^{ろん}ハ胡^こ莽^{まう}議^ぎの投
まひ一^た場^ばの^たり^まき^ゆゆ^ふ日本^の地^と

定めて終^{すま}らり^りく^くぬ^ぬふ^ふ日本^の地^とハ名
け^けん^ん
神^{かみ}風^{かぜ}や伊^い勢^{せい}の^し度^ど秋^{あき}名^なと^と皆^{みな}く^くば^ば
系^{けい}と^とり^りあ^あも^もり^りあ^あも^も回^わし^して^てあ^あり^り
と^とハ^ハせ^せぐ^ぐも^もら^ら系^{けい}の中^の律^{りつ}正^{てい}八^{はち}日^{にち}の^のり^り
と^と稀^{せき}一^{いつ}系^{けい}の中^の十^{じゅう}八^{はち}月^{げつ}の^のり^りと^とあ^ある^る
あ^あら^らく^くら^ら系^{けい}津^つ月^{げつ}後^ご也^やと^と晋^{しん}子^しも^も
云^い出^いく^くら^らあ^あら^ら系^{けい}ハ^ハ汗^{あせ}の^のき^きぐ^ぐり^りの^のり^り

三
四

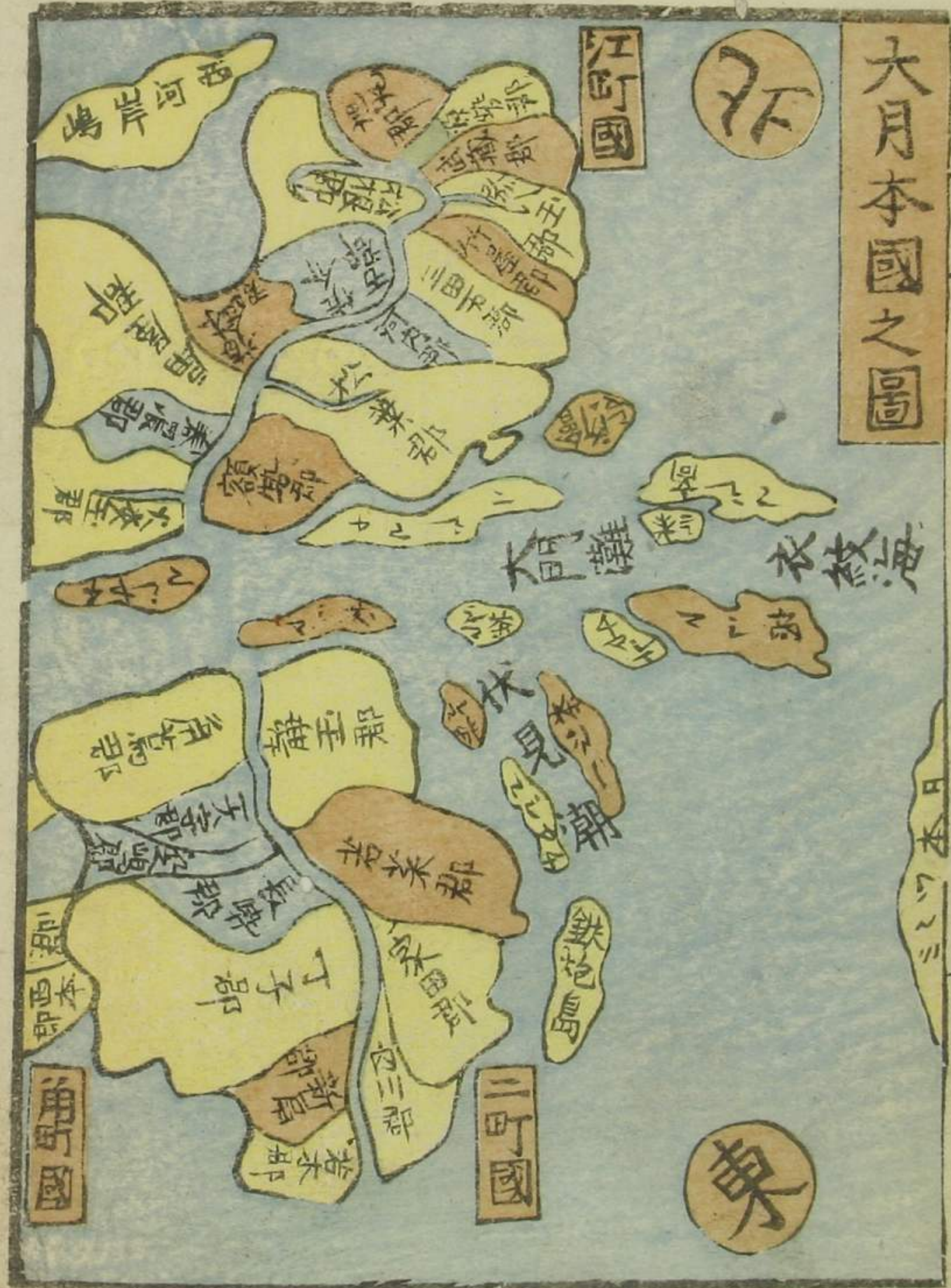
しるしありしあちのゆくは身くしく武とぬ
男子とさよぶよしあはるむがどの志とぬ
すゆへあむざくしく中央女者市場
ありむ女とさよぶこれ日本といふ月乃
まろりん祇の遠あれたお月々の月乃
字と匠と垢のあんの字とともく日本と
と名をいふとつよこれと又むすふ
とそりぞのむすむといふ

- △江甲國 高時十五郡
 - △三甲國 高時十一郡
 - △角甲國 高時十一郡
 - △京甲國 高時十七郡
 - △新甲國 高時十郡
 - 揚屋満池
 - 中之潮
 - 伏見潮
 - 大門灘
 - 夜紋海
 - 水道尻
 - 會所嶋
 - 九郎介島
 - 茶島
 - 商島
 - 西河岸島
 - 鉄炮嶋
 - 羅生門島
- △新甲國 高時十郡。江甲二甲の二島にありはつと云
高甲新甲の二島と高甲高甲と云
- 西河岸島 二島あり 十郡
鉄炮嶋 多
羅生門島 多

大月本國之圖

下

江町國



東

野國

三町國



京町國

田

新町國

新

如女

月本國風土

け玉の風土かづちいしえより治ちかあふ
 むれを今いまと新あらたりしくいつあふるむらと
 りくどもまゆり年としとらふと男おとこと女めと
 女めと男おとことむむとておと周まわひ男おとこの
 女めと男おとことえゆと禁かぎり女めと放はなす男おとこと
 あひ嫁よめ姻いんの具ぐ男おとこより初はつめ舟ふね席せきハ皆みな
 女めと男おとこと陰かげ玉たま乃のいさとしりて

日ひと茶ちやと月つきと教しよぶのまじり月本乃
 本ほんをあらぶり十じゆめ十じゆの二に女めの月つきと女め
 満まん玉たまのまじり日ひとすも玉たまのまじり
 五ごヶ玉たまふ一人ひとりの主まを満まん月つきの佳よを表あらわして
 夕ゆふ上の上王わうと子この好この人ひと講こうして今いまの各おの々おのと
 けりいれ神かみ出でて夕ゆふの玉たまと女めと
 名なをまじりよみあやまらるるまじり又また五

四

州は小一郡小一人ツの司あり。こゝ内所と
りい且郡とんとり小一郡の司なる人智恵
まんくとあれは二郡くの司なる人智恵
一玉小對一していませむしむるなく。皆さんぐ
をさんぐ日本人の目にいませむしむるなく。皆さ
のこ多し。いれ別は風あうとらよ。又一郡よ
一人の司なる人下少きてさんぐくらすんぐ
る先女あり。これを作りてと云げ友一ツ徳と

おふ事して大切の物と云。一郡の治めごとありて
け徳の中或ハ肥或ハ志むむ治めごと。いよふ徳を
かかるともま。又あまいゆ人よとらさるるまといふ。
又徳の口やあがごとくあれどもさるの口やあがご
とく。徳のかられぬ時ハ平身なみの類がぬれるといふ。
りづれやうての革中うんきんちやよめのあまとい。川きりり
あまいあまのあまといしませむしむるなく。皆さ
日本人の目にいませむしむるなく。

目
目

尚玉男女たふ盛をゆゑあむしつて生かすやうやく。
六蔵ふ通ずるもの八十余人を。孔子の門人六蔵
あやするもの七十二人と言傳ふてまゐるべし。が。
け玉蔵の多きものとして肝を伝ふ。鉄の
昆布をては筆蔵の事とさしげぬく。く。
ちゆゆふえくくくハ古口あうそあれどげ上
又ゆるく盛共がぬくくもまれど。又け玉蔵
の介不待が連郷茶香鞠生花の数也。く。

何みうくびもあやゆ甚くはれちやゆゆも又
まみやうくこれと引風蔵とらふ。ちや例
く止むくふらあて。皆日本人あ對
て吐のりと合せるくあよする盛あて。く
陰あれむゆやふぬくくくくくくくくく
あ。日本あてハ人をとるぞうてあつハ流
りませくくくあゆま。け玉をハあつハ
さくくくくくくく

人情を論せし。女ハ仁しとて男ハ不仁なり。
 女ハ父母兄弟の貧乏をまぢひ。娼婦の中を
 てむつましく。親の窮乏を肥さんと子幸
 万苦して親をとりども。男ハその思ひやう
 むく。親方女誘ハりあふ。及ぶ。若の老とい
 ども責及々をかわして。人を擽ら乃ん
 常におく。仁その心為し。女ハ又義を
 たり。むして甚し。指印。契印。起。法。云

凡そまゝ一入。是子一が。解。契。唐。と。二。足。三。支。
 と。輕。中。和。合。の。客。の。あ。火。餓。と。い。も。合。ひ。
 名。保。と。和。ふ。及。ん。で。六。齒。廉。と。け。ち。親。仁。の
 哈。と。と。ま。も。む。と。と。せ。び。礼。厚。か。て
 と。く。酒。と。ま。と。久。煙。と。ま。と。の。白。と。と。と。の。り。と。と
 と。記。中。と。新。遠。出。る。時。ハ。必。須。入。と。ま。ひ。極
 然。と。ら。と。も。終。室。客。と。送。る。の。れ。も。訓。條。と
 巡。行。と。あ。と。め。と。れ。く。の。弟。阿。う。只。智

意ハ中務と日本の人ハ等よしとて日本
人は比子むる所ハいりある者もあはれ
あちの釋と吸ちてあちまちあち
中の町とある是月本玉の佳ありと信
の一字ハ等向ハ解く一帯の曲角と日本
又ありとて是も是小児輩の俗見
按まるといふ云一里をまはる所の
客細くといふ句は又

一見識孔子曰あちの信多れを先も信
くあちの嘘と概くして先の嘘の在卸
とあちのあつたやうなと若子の説ハあちが
通多れを先ハ概くあちの野言多れを先
ハ嘘とあちの嘘を先ハ概くあちの嘘を先
釈するハ虚言ハとんちとあちの先ハ虚言
があれを先ハ概くあちの嘘を先ハ虚言
りれを先ハ概くあちの嘘を先ハ虚言

日本國地理

節用集首書曰

神武天皇日本の

かゝるは城又まゝの

秋津虫のまゝと

似たりして日本を

秋津洲と名付

まゝ



は時月本ほし人皇の

をいふは月甚武天

皇と名付るが肉体と

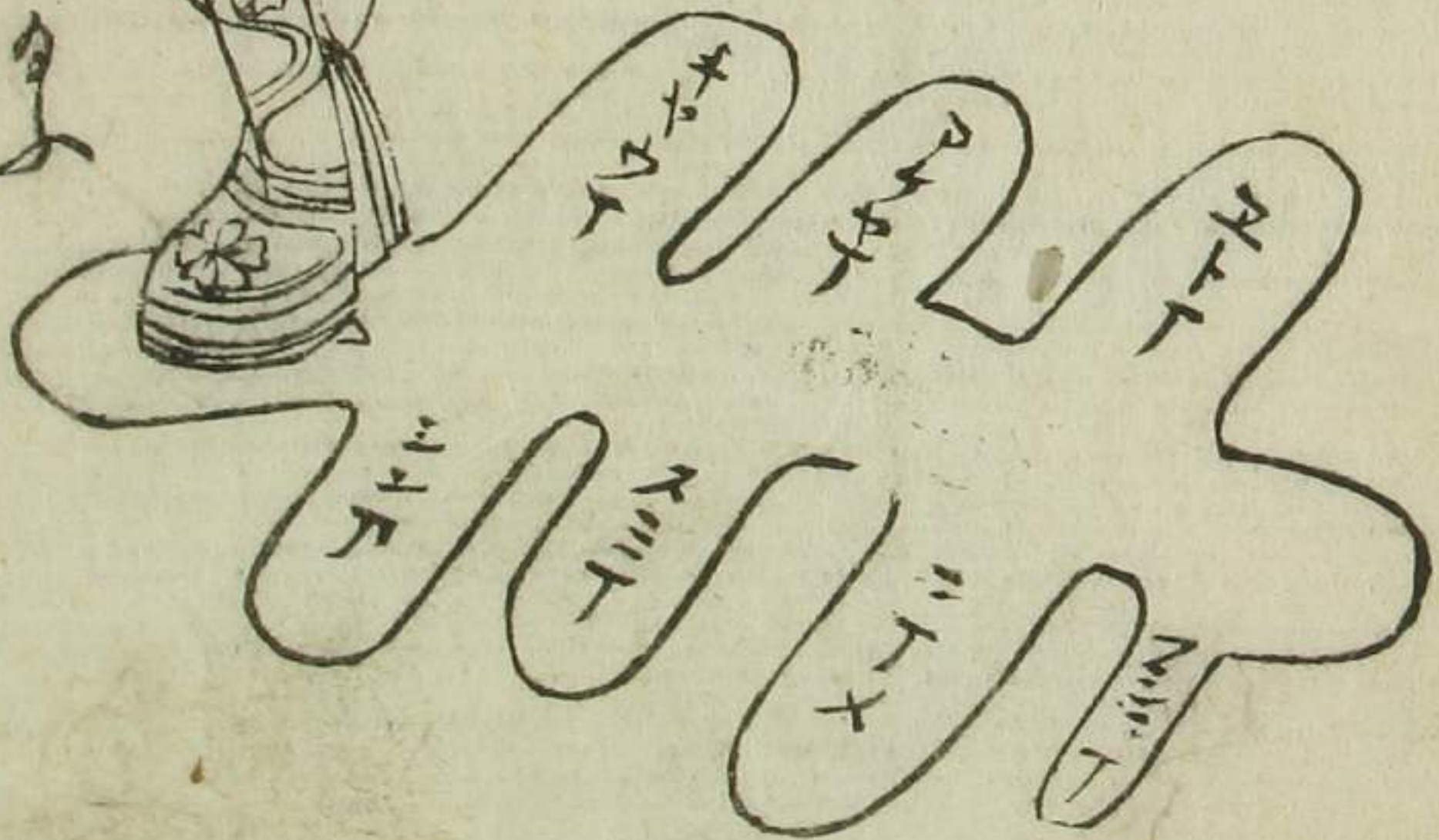
月本のかゝるをえせのま

上キといふ字のかゝるあり

けはを大いあされのい

別あまは洲の記

きめてあまじんすと名付ま



江甲國

五州より小中一山一の大ぬとをてられと海川
とろり川の右なるぬと右川とま左とあると左川とろり

右川
○頼勢ガクイセ殿

△初系橋△なるが村△も川村

○松葉マツハ歌

▲津之助の城いちぢは城あとのけしきせいであつた

ゆせうとてなるぬありぬせいの徳小田津ふ

といふ文字を句のかみよきて城あとのぬ城

よめとありぬとくた

松のふうてめで〜花六のちうせき

すうこ〜あよのけ〜ま〜ぞなるふ

▲松の井いん名あ〜かてらる橋く〜あ〜ぬ人

あ〜ま〜あり〜古〜あよ

よ代〜けて葉ゆ〜ま〜と〜川のみふ

〜み〜ても〜ま〜ま〜着み〜る〜は

▲花葉のぬせは城いのり〜く〜あ〜た〜ま〜ぬ〜よ

あり〜ろ〜く〜あ〜つ〜た〜れ〜の〜ま〜地〜と〜ふ

み又ゆのさーまてはけるがめとらなはさーし
 けと押おめさーしこくそくかめくその能く
 浅き影の影とめさーしと人やらん
 たるむさるるさるるさるるさるるみ
 △若菜の影 △漆山 △赤川
 ○河内郡
 ○三田町
 ▲清花山 ながめとまことさるるさるるさるるさるる

まてさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 天てんのハむて果こを

△清洲

○竹原町

△玉野ヶ橋 △漆の井

○弥八玉町

▲白玉の橋 橋板はしの音あふおどきして面白く
 拍は子ありけ拍は子あうかれて後る人多く

▲赤町 下海りの町並まちのやうなれど

百三

十九

婿
如

家のたてくくくくくくくくくく

○武彦郡△さよの廣

○源常郡

○旭九郡△も山

左
川 ○大を玉郡

▲若松ナ系松の本まきあがごごごー其の内へ
入るふはてえおありながむくくとあふま
くつあふくはくくくくくくくくくくくく

を路人のあ〜〜この目とふ代りて
むくももまげま若まのりがさ〜

▲玉川 川あせてまの流れむ〜〜ようハ細
〜〜も代り名さる大向の名ハ今もう〜〜
人もよくまれる名さる〜

△まらあや村 △花岸村 △うまま〜

△松の戸の夏

○員滞郡

昌
記

二

▲みやこ野着牝のみどりのあぐめやうへ
えおあり秋のお種ちくさの花の登のぼりまゝあき
あぐめあゝんとまゝのり

○扇屋郡あふき

▲花扇の社ついでに風流ふうりゅうの神かみを
こゝろせり利生をあゝこ境内けいだいのけ
きし神の序しりふかあひてまのむす待まちあ
の客きやくと思ひ秋の月つき連つら俳はいの士しとちこひ

みやこやまなをまよふ人は神かみ新あらたくは

未いま度たびきさくばの花をかあめあゝく
風雅ふうがとあひとあゝくかみ垣

▲かゝるひの候もあまのけりまゝあゝと入て
あゝらゝるまがらあゝるいんあゝちりけて
あゝよあゝるまゝあゝ

うたゝいのもあゝりまけをたがうけて
あゝりゝるゝあゝりゝるゝ

▲七六―が浦 たるやうやうやうと面白き浦にけ浦
 あてけらぬをせうはとよのあさうびんとして
 さらば甘味^{あまみ}ありけ破^{やぶ}りけともさあぢ
 ながえあうやみ―の松のようい
 敷もあひく―の浦
 ▲瀬川 け川の瀬ううて今云代めの川
 みのりきまひまはくさうんあう
 瀬をともみ揚るもともみ瀬川の

▲山よせううきまゆくにせうまゆ
 ▲あやてる海をまき名をながるる―海
 くのあがちとそくんあうまゝあり
 ▲け君大明神をまきけあうりけあまあぢを
 うつ―なるも賢^{ちか}智^い愚^ぐのさうちあく利^り生^{せい}
 めつがうたあ―し地利^{ちり}み交^まる神々あぢ
 ▲さうさう村

- 梅津郡 ^{うめづぐん}
- 佐々木郡 ^{ささきぐん}

○松が根郡

▲あがまきの社は神あがりといふ所は
神さかしの傍の明神と一社つたいえどんを分ちて雨を
このまふゆふ松が根の松をちんかまふ
とく神六の松とせんめのゆの地の目の
傘かさ百本河のくんとあはれをせいじんあつと云
△あつまや橋△風吹山

右十五郡

二甲國

右川○角葛郡

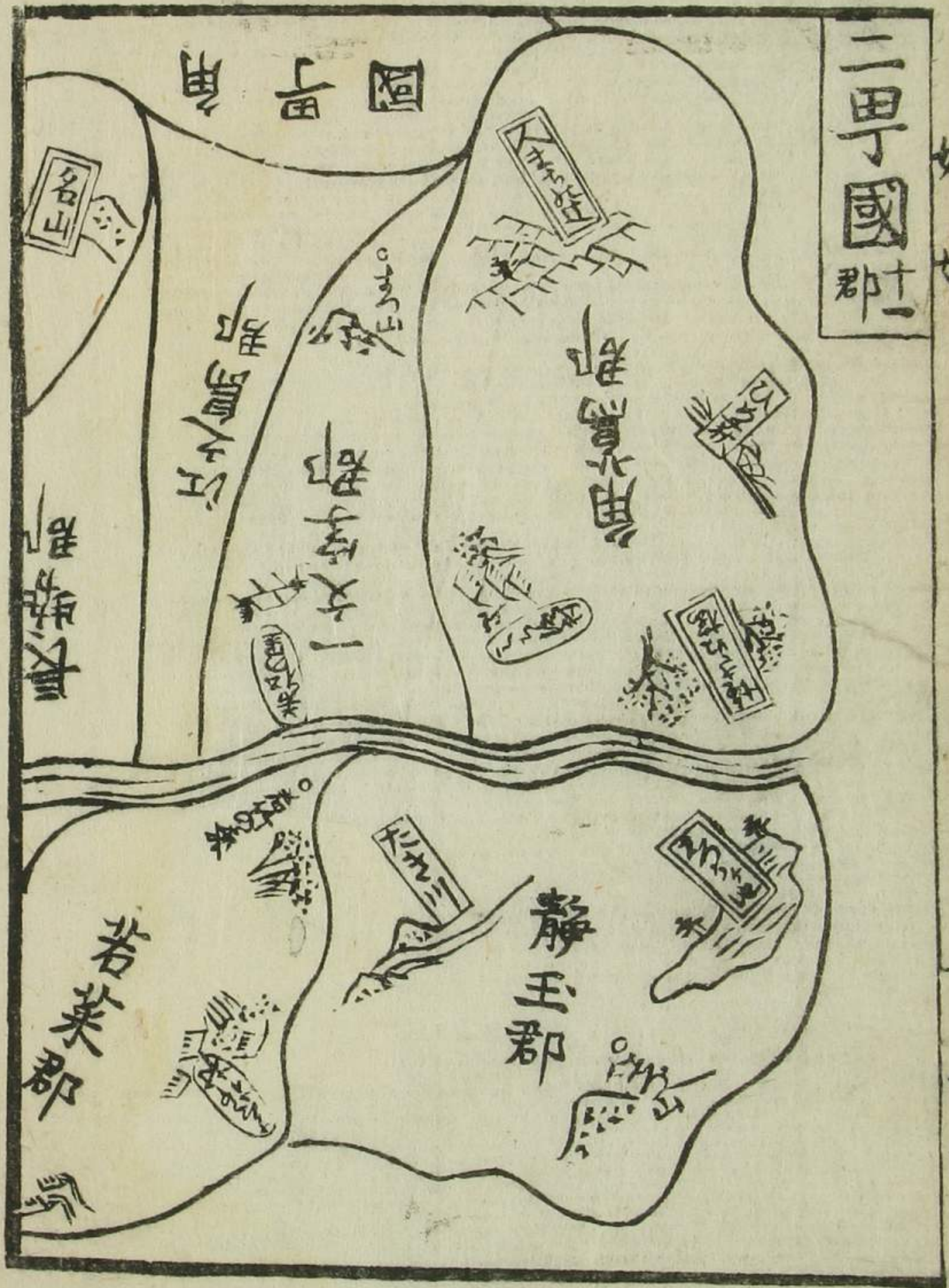
▲人まらぎは河の名はさねのひんとて
一戸のまはむけとてつげのちつんとせん
とをぢく場を

君が名をまきののさうづきさしつめく

まらぐもつきせぬ人まらぐつら

▲松夜橋むらうより名をまき橋とて

二国郡



古語の丁子歌
 大都より山多し
 何れも山多し
 今浪網候さる
 出るちきさひあ
 りてあまの山
 され今あまの
 山あまの山
 今一二年たるとあまの山

まりて室のみち
 今一二年たるとあまの山

くまてびほめ代か及ぶとつま枝まきびや花の
いろをほまどろくしたるく見る人花の姿に
日のまると惜む

角篇
ほまぬの岩はかりしどほくは

つら木の花乃さくろいとぞ又花

▲ひめかき唯萩を代の名やし萩の且い風とまふ
よみこれどけ萩の風さういあるぬあそ
考せうせりうまがしつめを

▲みちまや村

○一文字郡

▲松山け山の松崎小松をれども本立の
くくきれいし ▲若松の里

○江之館郡 ○長智郡

○丁子郡

▲丁山け山の花うつくしかりとよりん入
らけきたびるをよりおとてなぐめ

▲ひるを癒すはけはのけしき甚だすあり
孔の八陣のいづくもくけは小入る時八方
角と名ひてりるるのりしと

▲名山ありしらのがらたすまふあり
まけ入る花のながりよこしはまふとふ
一刻千金の比し

▲千山ふももの名をくむじの花はひびく
くらくもや今若木あれどもつげ入る

ながむる人多し ▲かきおの隙 ▲かきま岩

▲美山 ▲あき戸村 ▲若木橋

丁山しやうざん夜月よげつ照て千山せんざん錦戸にしんこ朝花あさな映え萬山まんざん
詩祝ししゆ若鷗わく雛鶴ひなつる齒豊はしゆ春貢はるきん雪満ゆきみ名山みやま

○新扇歌 ○若木歌

左 川 ○静玉歌

▲静が池むくくしりせ池のあはくか
あはるる時風あつても波をくそはゆふ静が池と

いふ今うららの地池の名は... け地の名と... け地より... け地より...

波風もあぐさぐさの月うけと

玉やうかむと人のあそび

▲ 湫川は川もあはしくあつて静が池くみのほ

まんとあそびかけ

▲ まぐさ

○ 若菜郡

△ 志らゆめの原 △ 妻やね村 △ かく橋

▲ 若竹の森けーさしあく何さあ

されども人さびまてあがらとあるハいうあるゆふ
やあおも名さるさ勝地あれどもさやどふハ思
を絶景の地回れ不人の思ひ入るハ八幡寺で
の森のいさかきぎのいさか

○ 家田郡 ^{いゑた}

▲けちる山つらろひもく何ゆるあま山のけ
志きるれどけ山とるまじるがへあふけ郡ハ西紀
ちふといふ春山ちんざん如こゝろ笑わらとて木の芽のそころよ
と山多あといふけ山ハ日暮ひぐさとよあふあがじ
くく人あおある山へ

え日や六のま山入る名の

▲まづちのさ里入ちかのよふあふあが
こよちかあふあがこよあふあが

志きるして名あふあふあふあふ里入のたふ
めいとらあが

○内川郡うち

み上十一郡

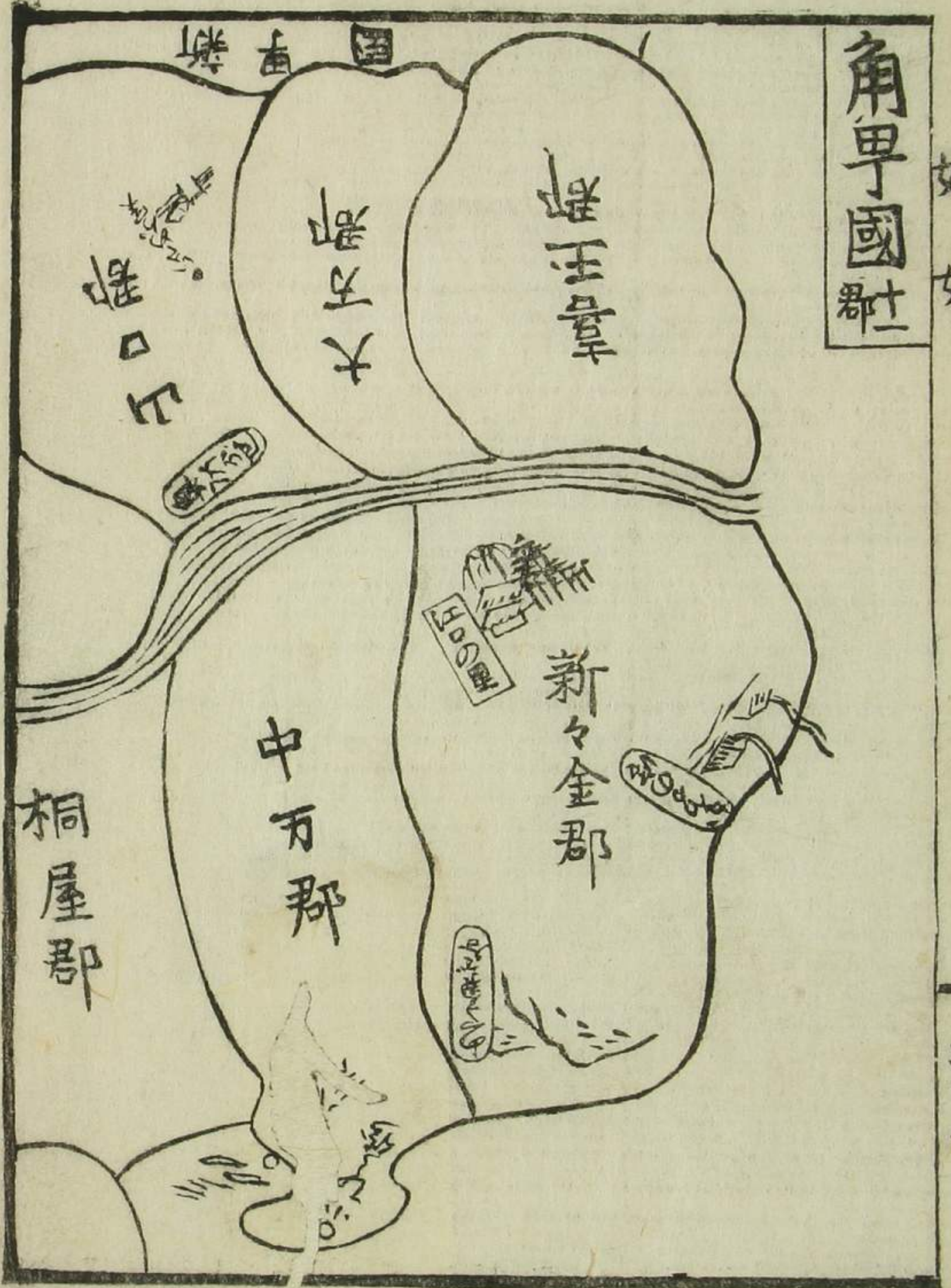
角界國

川右 ○喜玉郡 ○大万郡や

○山口郡

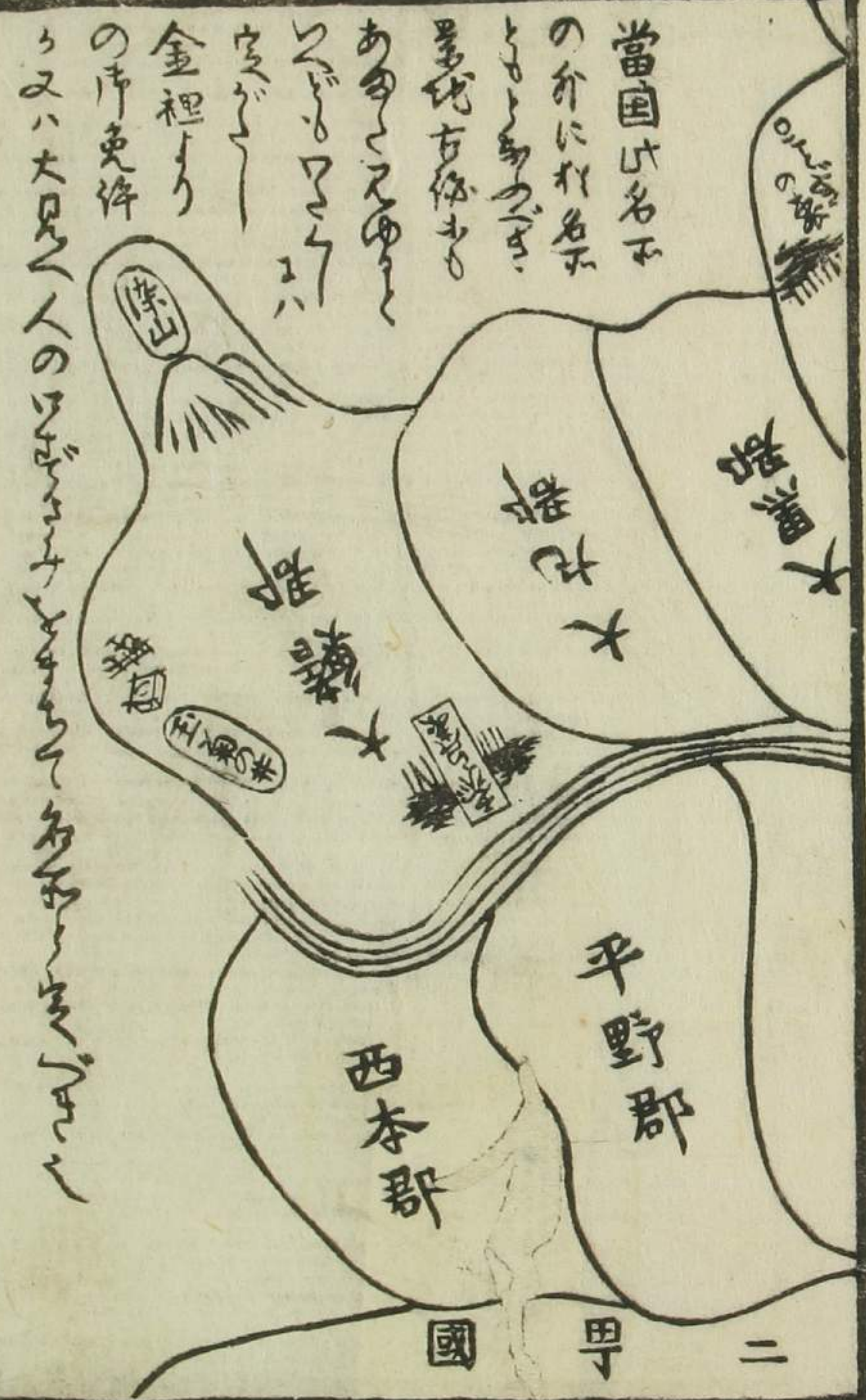
▲奥列おくがち海川とあふ川のあふあがれあり

角甲國郡



如女

三十八



當國は名不
の介に村名不
とよとあふさ
多代古伝も
あふさるゆ
とよとあふさ
とよとあふさ
金裡より
の序免降
ら又ハ大見人の

昌記

三十九

いふよそぐまのそぐちとあるは此川のよそぐち流
入されどけちちのそ名持より

△いそめが実 △あそがきの森

○大正郡 ○大丸郡

○大鱒郡

▲お菊の井は井世つづきて名も
よりの名よめで今も程はあともむ人

△あびの森 △そめ山

川 左 ○新々合郡

▲うほろの渡むうけ所の地がよ地本と

ら登し時名本ありてあは天のうほろと
うほろのそむいふ今もそ余考あてえあふ
よきかありうそされどもは渡は川のそむい
くめし地がよの地がよあびま南ああびい
ものうそあかひがごい

▲あや菊が谷菊のあがめんりしんる人

心を用也。一りあやまらてはさるる事
時ハあやちハあらぬ

▲江口の里かうの中どうをひむ君うると西の
法師の依せし余月今ものごとくして里人皆
風雅を好むと云ふこと聞かざりし
ふそま上あり

- 中万郡 △花中郡 △急あはれ
- 桐原郡 ○平北郡 ○西本郡

以上十一郡

京甲國

川 ○田村郡

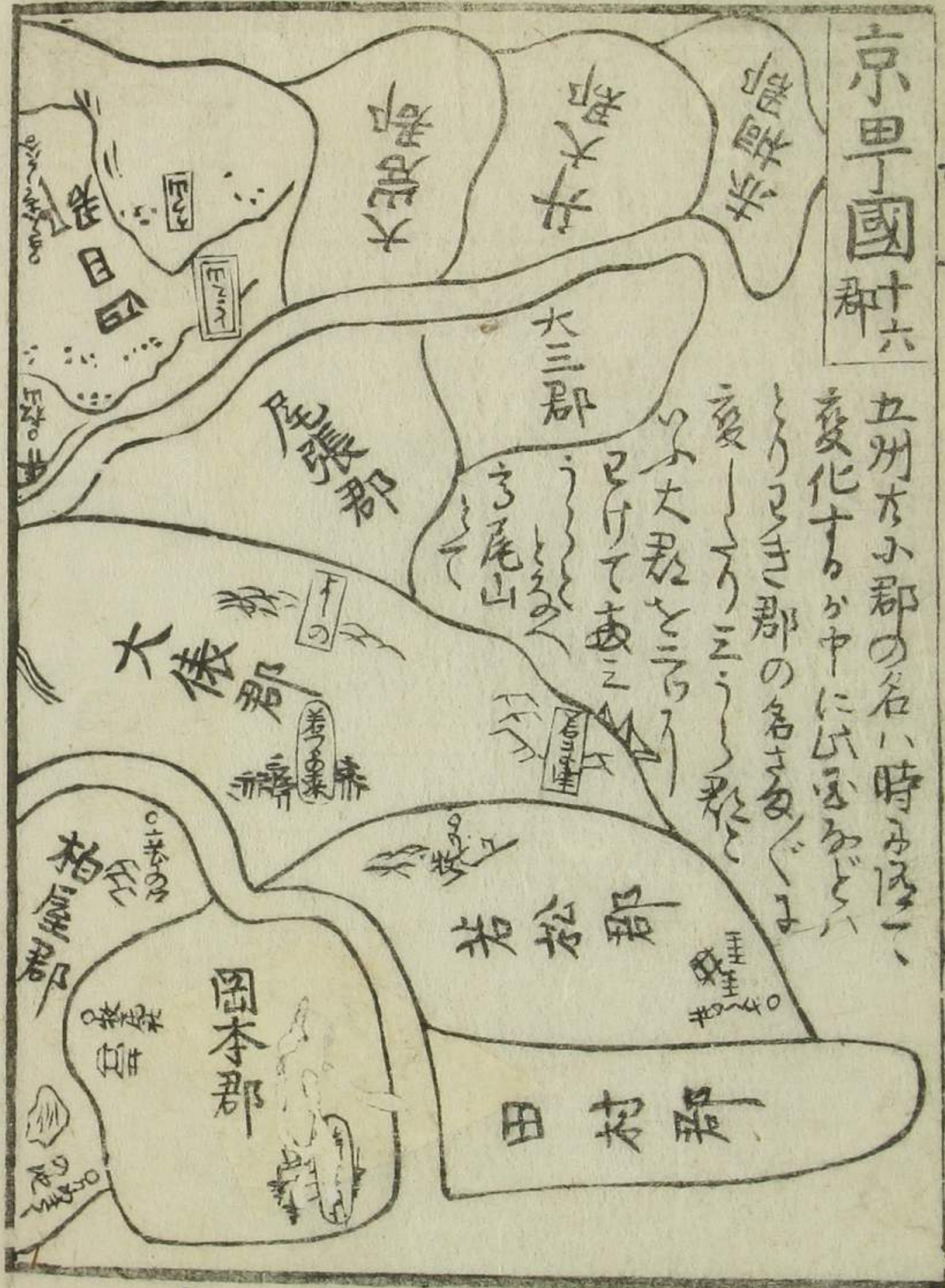
○若松郡

△つるの井 △もと牧

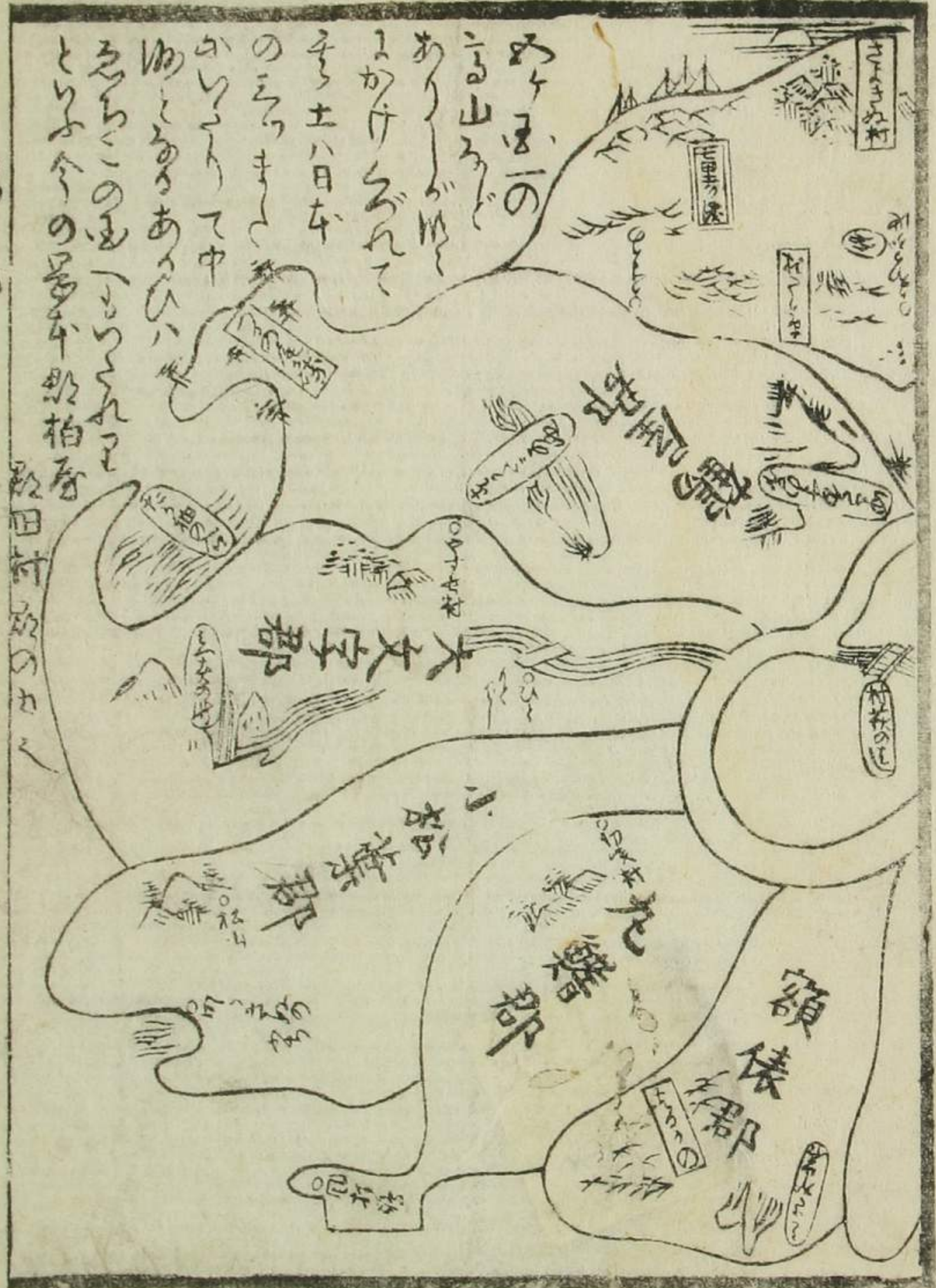
○大俵郡

▲若ま津あつぎきくろ糸毒の地入如絶
す年を追て程さくんちのづー

京里國郡十六



五州方小郡の名は時々
 変化するや中には
 ありては郡の名さ
 変へたりて
 大郡と
 已けてあり
 尾山



めまの
 ありて
 かけら
 そと八日
 のま
 か
 あり
 とり
 今
 号
 柏原

▲より野 とみよの事 たのみよなる名 たのみよなる たのみよなる名 たのみよなる たのみよなる名 たのみよなる名

▲若尾の森 △村おまの橋

○尾張郡 ○大正郡

○尾張郡 ○大正郡

▲より とみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神

▲より とみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神

○柏原郡 △立木の心 △壺巻池
○額張郡

▲より とみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野

▲より とみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野

▲より とみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野

▲より とみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野 たのみよの野

○丸籠郡 △初塚村 △尾持村

○小松系郡 △松出 △加々木家の例

○大文字郡

▲より とみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神 たのみよの神

家戸ふ折入らけしきし又所のあへ入はふ疏
居て生づひふ多勢とあしそふ風情いづれを
あがめあり△ひとりの橋△やたらあが村

○モ務屋郡

▲つもの尾が傍遠目おえくらけまけらふん
かこるまき景地と

▲ナダグの人の地むじけおまの生ひこる
系河の別々系とて舞まき景地ありが

後田畑とありてそまがけ地と強しうま系系乃
回海をれを人け地系をちをあがまら地と

△ゆまきまの系

○四目郡

▲こみ山つらひ多く大やとある姿の山ありて
てえれをまきがらの風景坂とありてて奥山
のけしきとあしなふててば

西うら目の雅みはくぐくと

おひとそめお一入とみ山

▲さよ衣村きま口のおの名おくのくしらけ

くらげしきいんのもれを人きけ村おやん

しとせしむある旅人まけあまやうて

今う船少おまぬじしのいおまぬい

△山△まぐら船△まんきうが谷

△う海が池△かまが船▲せさと入渡

けみるよまをまは俄わかし物まらる地たて伊在の

を船とらわ若は浦やこむろがといふおとけり

出せふうつとがーよもまきうらうのうらぬいお

るじゆくぐららのまうる浦やおとほじとそ

七さとの傍といふ程之四年もさあをけうくの

あふいん学まるるがごとく未だり

七さとのみるよりまは門出入

仕合あと作いたりわい川めや

○大岩郡 ○神大郡 ○赤桐郡

以上十六郡

新野國

川右○

金郡

△七戸や村 △こぼし木の塔 △厚良入江

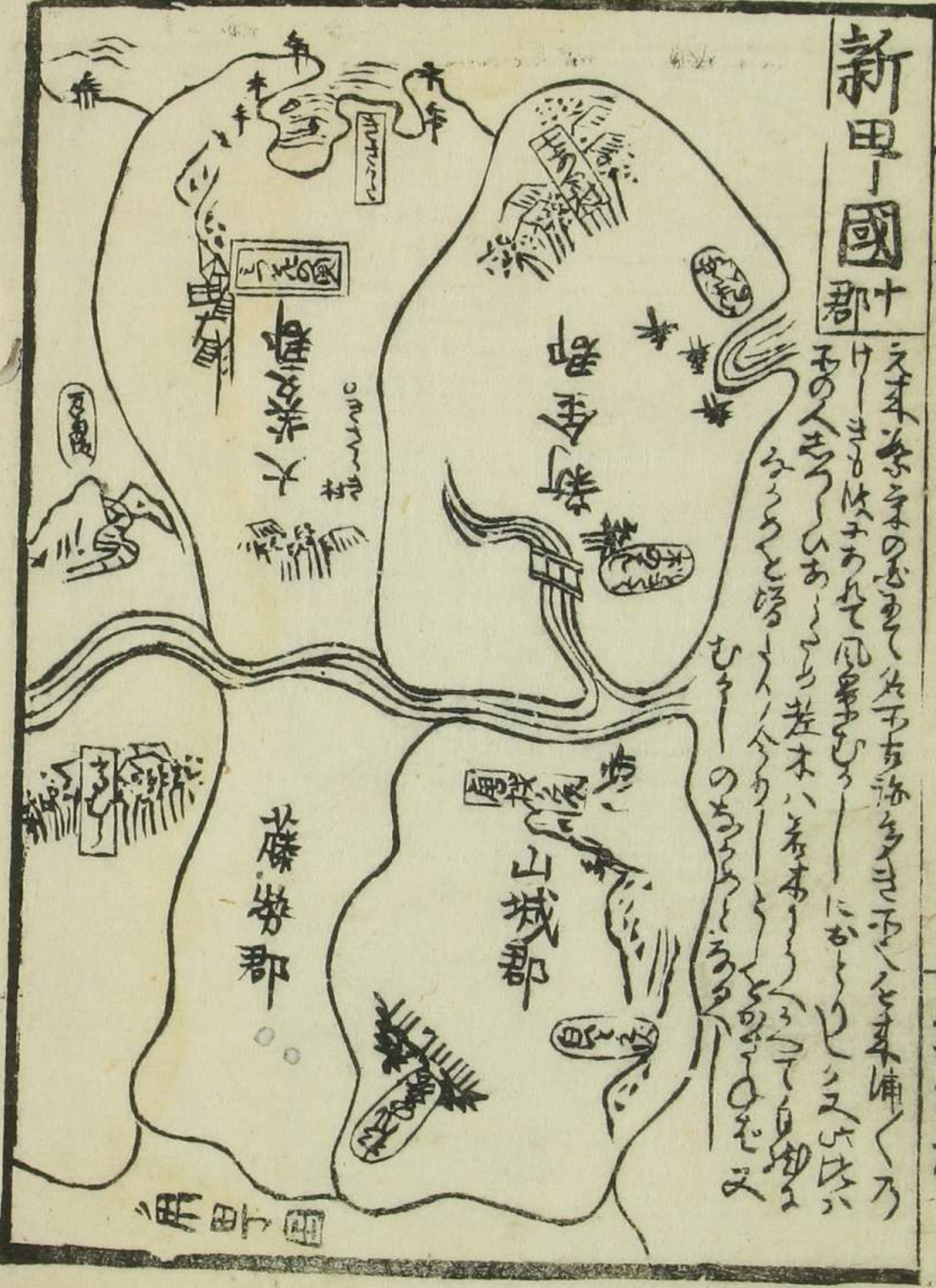
○大菱郡

▲日さ海日本の象々ハニいせ葉あはつてゐる
務地はうけ地もそをとりりてあらめ大々たる
どあるふ遊ぶ人妻の日の女もさうさうだ

▲みつ花の園は夏あうぎくして偕ハもちろ人
医者あても長老あてもさうぶてあるぬの丸き
ときらひて実と海ほよとゆるさだおどて
算の習あれを刺長女の海けハむつーさ中
あもけせさハわさく林あずらゆ我まき氣づい
地似れよハこれがけ夏のあつりーある大
偕あめて醫者老のそく福ハさうらも
せよ坊々のせさハゆるしー

昌巳

新田一國十郡



日本新田の地多し其地多きをてんを本備く乃
 けり其地多きをてんを本備く乃
 子の人多し其地多きをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃
 なるをてんを本備く乃

新田一國



新田一國

新田一國

△まじらぎ村

○桐菱郡 きんぴら

△龜菊の郷 △玉菊の里 △万菊坂

○越前郡 えちぜん

△和室わむろの櫛くしは櫛くしとていへん人ひと甚おんんたたああははて
ううららととゆゆかかれれををたたららししひひつつににああららししててははくくににそそれれががとと
るるゆゆとと合あはあめめてて用もちひひててははくくににそそれれががとと
ももああららしし△こと浦△りらにが坂△九千の里

○中近郡

▲みつ浦はうのけまきとてあひひけき
目ふつとつゆあくつとま入ふたをれはらと
みくよ記しるしきとされ古風起り波は日
又青のおあけハ首てあづめはアる人の仕
合不仕合あアとりあを

をよえたりし津津のちぬおハあはれを
名よあよみやもかよあはれ風

▲かき橋日本のかき橋またぐくる者一木の松
 のきしに花中あらびあつてとつひのちの
 ながりまらあつてとよかき橋の松ハあよ
 りあがりあつてと海の吹よ白地とかうと
 ▲まき又村は二村皆赤人し帯り又樂意を
 りてあそびてあそぶものを知りて鳥のこころ
 比やうくしはあつてはつてとつひ一真ある村
 ▲糸橋の橋△二の町

川左 ○山嶽郡

▲かき橋一たい山のけしきとてかき橋も
 正しゆるあつて△白糸がは △松風の森
 ○菱智郡
 ○小松郡
 ▲さ村いし今ふまきまがめし小野乃
 等あまき 初後名 家 け
 とつて考あつて△あしは本の戻

○九尾郡

▲うさのまの若葉が桔梗のけしきと見成
と瑞ありてよれたをがらく △小登松

○大分郡

▲白娘山むらじい(山)はたにまを
やまのまゆのゆふしゆは白きまをむらじい
おめるといふゆふとまのまゆのゆふは
雪うしろとらふがむらじい(山)のまゆの下に

さがーまのたありてまのまゆのゆふは
用也なり ありらた(山)

ありま 午まのまゆのまゆのまゆのゆふ

白きえ山乃ゆま(山)らまえ

▲けしきに若葉がきれいあるゆふありて
あそびむらじい(山)のまゆのまゆのまゆのゆふ
ふまのまゆのまゆのまゆのまゆのまゆの

△まのまゆのまゆ

以之十郡

右平^{六十五}△平^一平^一平^一五州の名を著^{きんせき}之
 命^のも△平^ふおとりのもとりのあ
 後海^のとてつせんがあまを〜とふ
 り〜と

○掃屋^{まち}滿池い〜えハ掃屋^{まち}とて後業^{あひ}ある
 修くあひ〜と〜と〜と〜と〜と
 茶^{ちや}修^{しゆ}商^{しやう}高^{かう}西^{せい}のと後^ごを〜と〜と〜と〜と

せめて一^い修^{しゆ}と〜と〜と〜と掃屋^{まち}を〜と後^ご
 事^{こと}と〜と他^たの〜と〜と〜と世^よを〜と
 ○中之潮^{ちのうしほ}五州^{ごしゅう}つらふつて入海^{いりうみ}と入^い
 左^{ひだり}太^{おほ}茶^{ちや}修^{しゆ}多^{おほ}〜

○伏見^{ふし見}池^い二^に甲^か玉^{たま}の^の水^{みづ}左^{ひだり}太^{おほ}茶^{ちや}修^{しゆ}多^{おほ}〜
 ○大門^{だいもん}灘^{なは}衣^え紋^{もん}海^{うみ}中^{ちゆう}之^の潮^{うしほ}入^いん^ん之^の池^い之^の池^い之^の池^い
 る^るを^をみ^み州^{しゅう}入^いる^るあ^あ〜と〜と人^{ひと}ハた^た會^あひ
 く^くは^は〜と〜と〜と

- 衣紋海。日本地。月夜。入ル。波。あり。
- 水。尾。中。之。瀬。の。末。之。波。著。り。て。返。り。
- 今。所。島。大。門。港。小。あり。一。舟。の。出。入。あり。
- 九。下。船。島。南。の。方。小。あり。猪。荷。の。辻。あり。
- 茶。店。あ。り。ま。け。内。小。長。と。あり。もの。
- 十。之。人。あり。と。云。

○高。津。衣。紋。海。の。わ。り。て。み。別。た。ま。多。し。
 袖。の。柄。細。見。釣。瓶。を。座。山。を。夏。磨。き。お。も。い。へ。ん。

○西。河。名。島。江。町。を。揚。屋。池。く。り。け。て。一。舟。
 揚。屋。池。を。京。町。を。く。り。け。て。一。舟。を。け。る。山。は。位。す。
 人。南。瀬。江。を。好。む。五。州。の。人。を。と。り。合。ふ。人。
 物。ハ。越。英。一。れ。を。そ。筋。や。く。目。の。と。志。不。
 ら。し。け。れ。を。借。り。て。あ。ま。り。を。鼻。を。鼻。筋。
 毎。れ。に。舞。の。あ。ま。り。か。く。方。舟。の。尾。を。掛。ハ。
 め。し。あ。ま。り。掛。る。ハ。氣。は。氣。候。し。て。中。

ほのくさくさ

○後炮の伏見の末 ○産生の傍に二
早玉の末角早玉を彰甲より取りける
傍に口の遊女等買葉菩薩とありけれ
時身ありてるおまゝとてけ侍とある。江戸の御よ
舟の首をとりとありけり。とる油の掃底ある
ほろと。つり物を二軒あてつうやと云。人物は
皆お辨不具として折合ととり合ふ。

先ッ鼻うし先キへ喰ふと云。西州の人を
これと煮れてよりつる。け島のく白粉と糖
あまし糖土のおと。皆中とあけた白
粉ころりくるとなげて。お舞のあま
頬骨あつる。鼻は煙草との。鬼はしと
あつる。九州の人おひけり。け島のくは
くはけり。まうとまうとむけり。おま
これと丸おはして。おまのぬらひとらうん

目

目

〇砂利縣 〇田町縣 〇匠町縣 〇大
 温縣 〇舟宿縣 これらハ日本城を築き
 日本城のうちありと云ふも 日本城を築
 と云ふは 日本城の茶碗を伝へるもの多しそ
 く志て少くはあり

娼妃地理記終

跋

陰陽師不知身上親之心
 子不知女房色更亭主不
 知堺町者不見芝居吉原
 者不買女郎是謂之燈臺

目

〇

本閣モトクテ非ハ離ハナレテ其ノ場バ者ミルニ何イカテカ得エニ評ヘウ
 物モノ此コノ書シヨ也ヤ。予ワカ兩リヤウ眼カン加カニ於ニ岡カテ
 眼メ八ハチ目モク以モツテ評ヘウス之コレヲ。是コレ十シウ目モク所オ
 視ミル而ナキ無シウ秋ガウ毫ノ之ワクク私コトシ如シヨ所オ作オ
 事ゴト之ノ曰イフ事コト也カ。否イナト處トコロ如ゴトク此カシ雖イ

謂イフ高カウ慢マウ我ガ身ミ臭クシ予ワカ不ス知シラ
 安ア永エイ丁テイ酉ウ季キ冬トウ此コノ書シヨ作サツ者シヤ
 書シヨス于コ此シヨノ書シヤ後ニ



娼妃

四十五

娼妃地理記後編

澁都酒養選

右の年一出版入洋文の
そのあてふと一やみせん
少るは

板元

耕書堂梓



U. 5444

